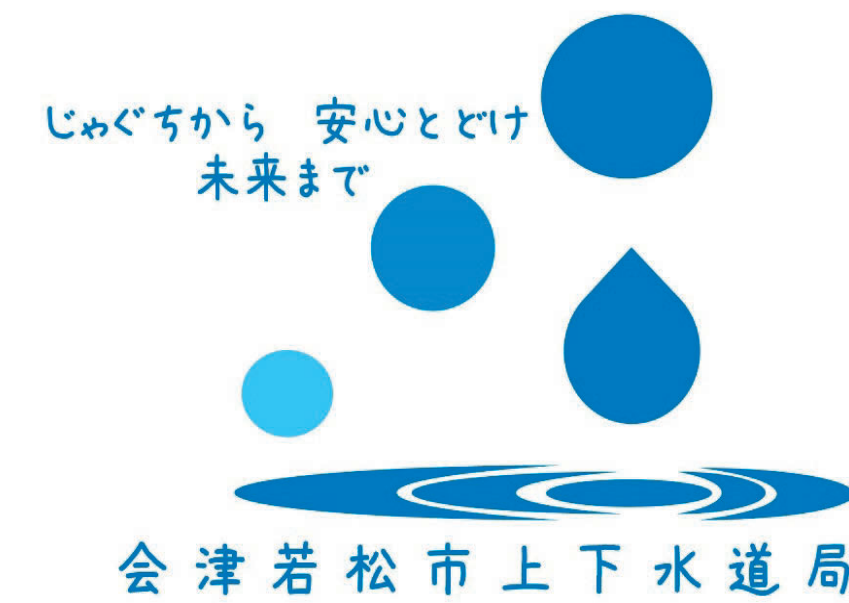


高校生出前講座「水を仕事にする」 —若い水道技術者の確保に向けて— (令和3年度の取組)



会津若松市上下水道局

会津若松市上下水道局

1. 抱えていた課題

バランスの均衡



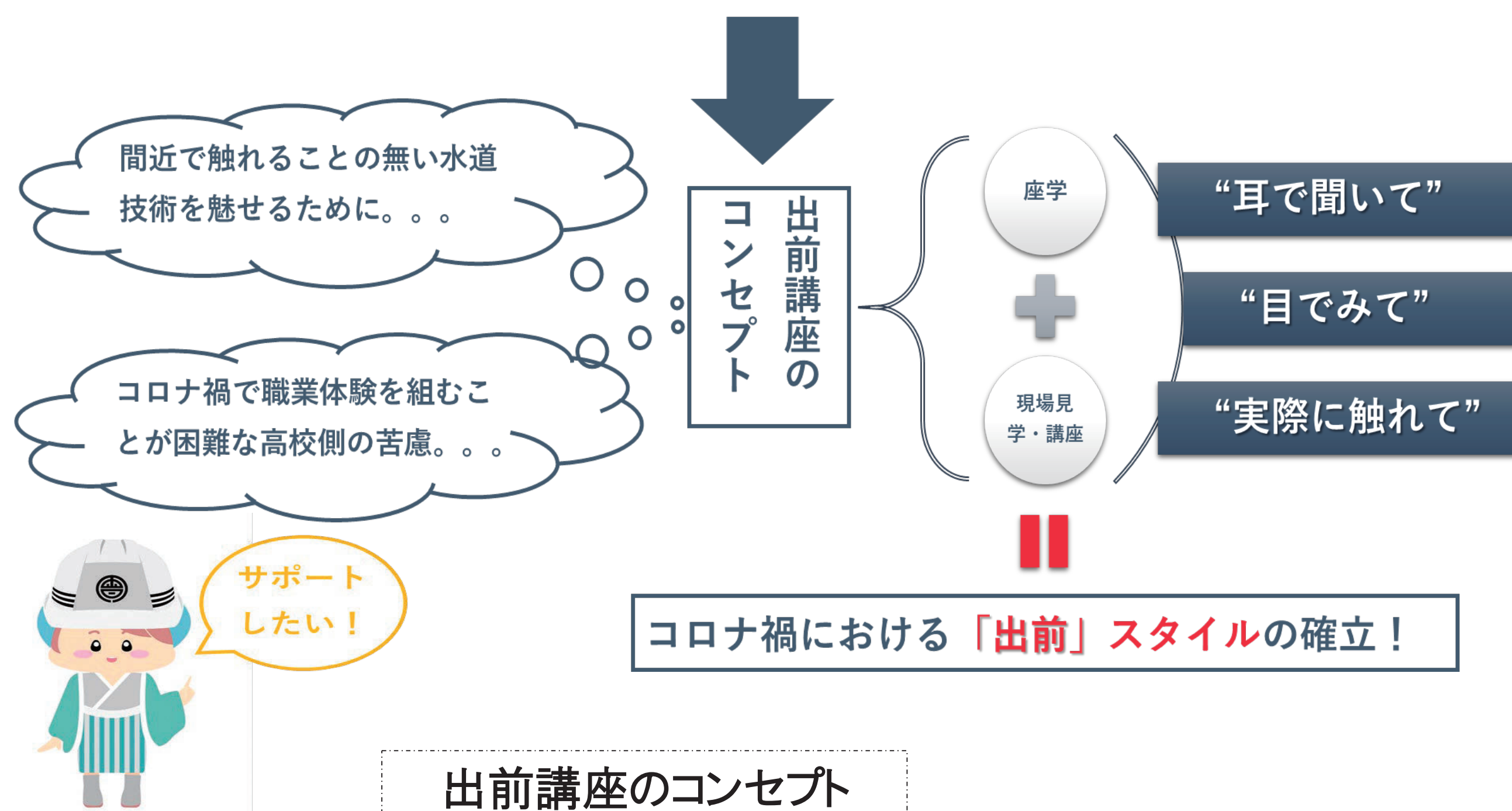
- 「ヒト」不足
インフラ整備を支える技術者の将来的なヒト不足が今後想定され、持続ある水道の実現のためには喫緊の課題
- 「技術者」離れ
水道は寡黙なインフラとして、一般的にイメージが付きにくい「モノ」。「水道に関心が無い」等の声が挙げられ、興味が向けられない傾向が更なる「技術者離れ」を加速させている

本市が果たす新たな役割として

地元の若者を対象に水道工事に直接触れ合う機会を設けて、水道の技術者を狙い撃ちし、将来的に水道技術者の確保と育成により、本市の水道事業の持続に繋げることを目的に課題克服に取り組んでいる。

2. 取組概要

「将来の若手水道技術者」の位置づけとして、社会に出る前の高校生を対象として出前講座を立案し、水道の業務に対するイメージや興味を示しにくいといった難点の改善に寄与できると考え、実施してきた。



座学：職場体験談



現場見学：工事箇所見学

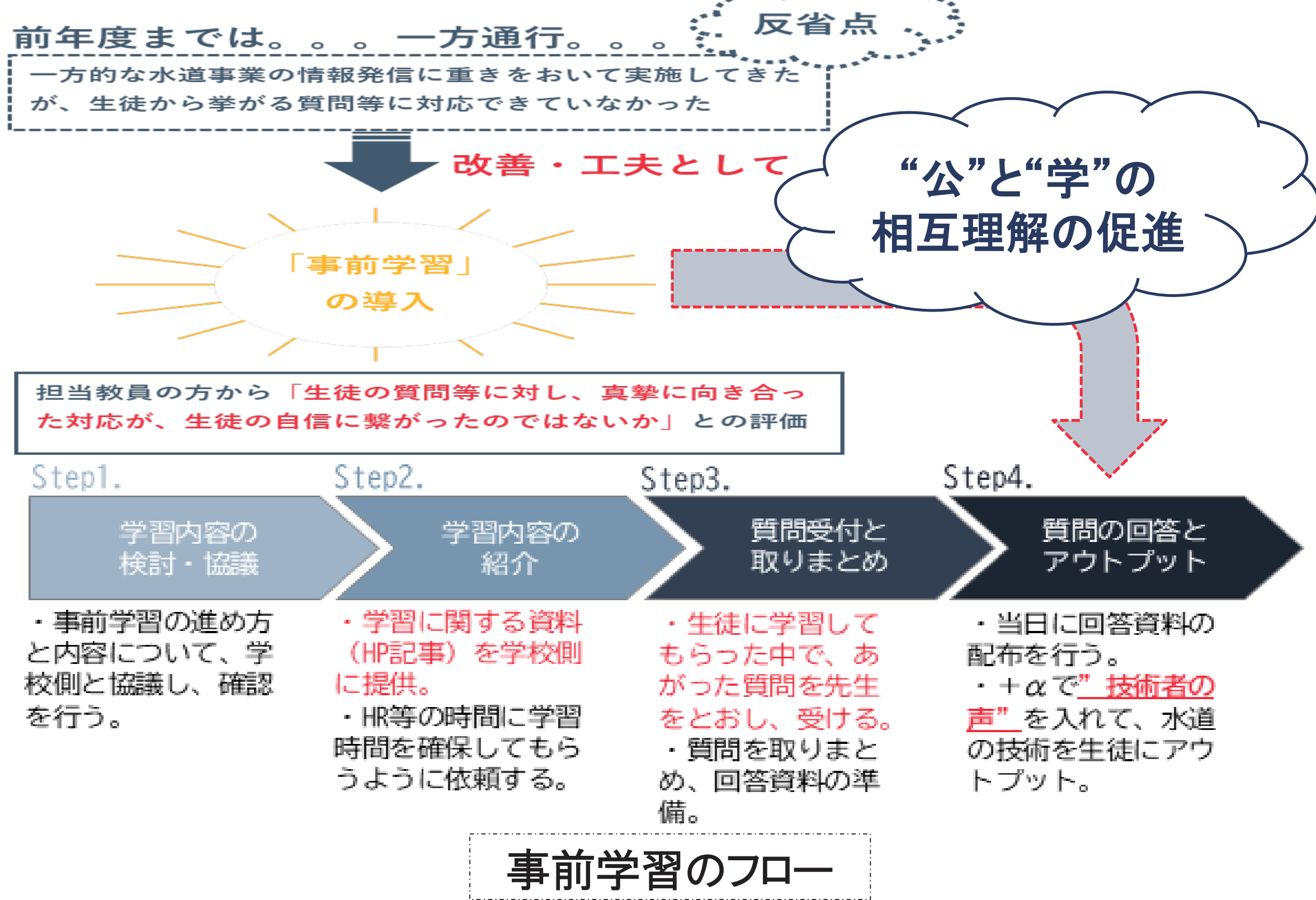


講座：耐震体験管の体験

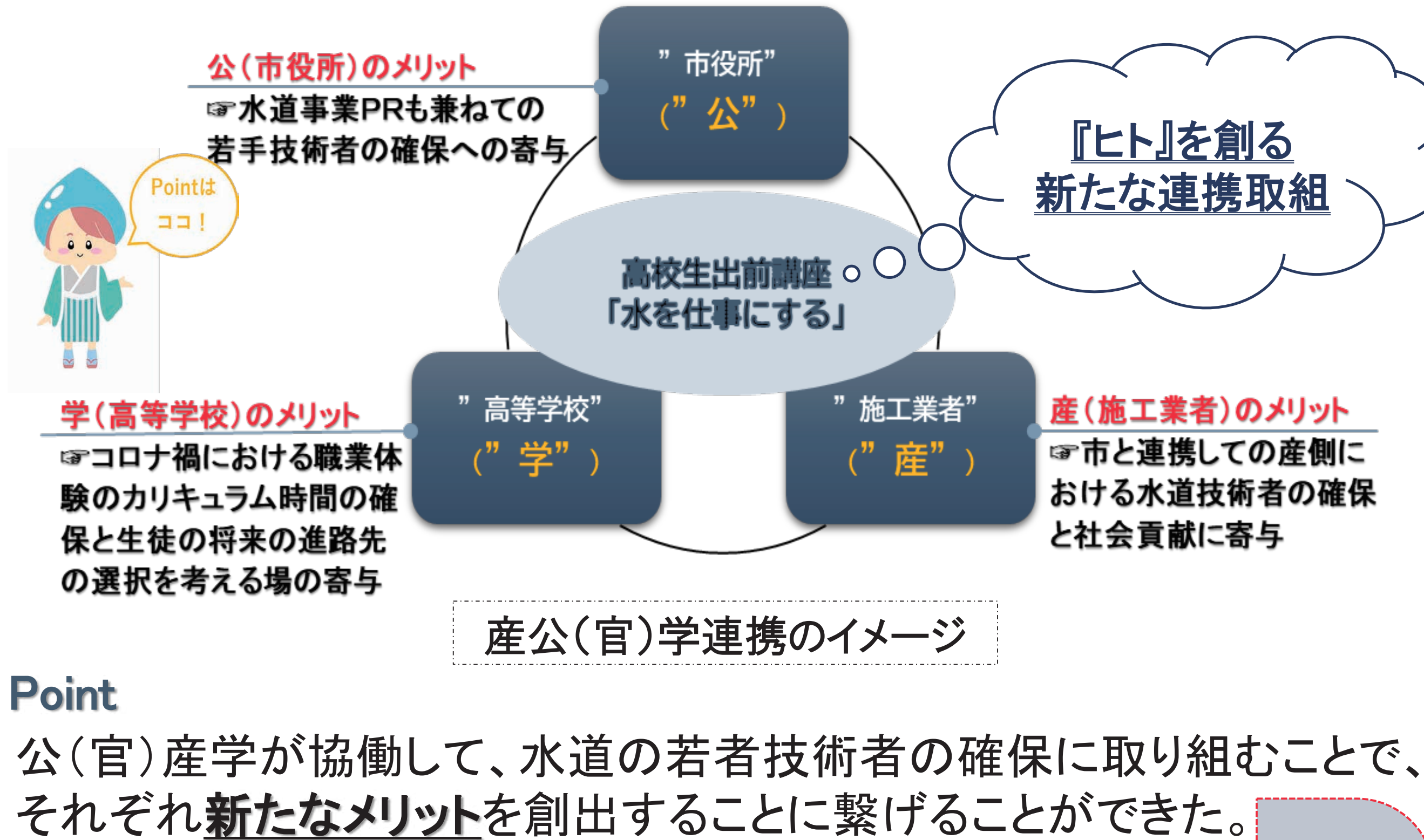


講座：継手チェック体験

3. 取組に当たり工夫した点



4. PRポイント



5. 取組の効果

波及効果性(内部)

- 授業の一環として組んだ「事前学習」の実施による市HPへの資料掲載、開催案内を地元新聞社への情報提供をすることで、一般住民の方々に対しても水道事業の「見える化」に繋げることができた。
- 生徒と担当教員にアンケート調査を行い、局内で「関心傾向等の把握に努めること」で今後の水道技術者の育成の取組と持続ある水道のための重要なポイントを共有することができた。



波及効果性(外部)

「公」の業務だけでなく、「産」の業務も紹介する機会を設けたことは、ひとつの「公民連携」として位置付けできる。今回のように受発注者が連携をとり、各々が役割を担うことは双方にとって、若い水道技術者の確保によるメリットだけでなく、地域間の水道技術力の維持に繋がる。

6. 今後の展望

一時的な取組とせず、継続して展開するために...



○多様性

継続性を念頭に前出講座の開催にあたり、これまでは「水道」独自の取組であったものを、講座内容の多様化などをとおし、「市政」連携により、技術者確保を目指す。

○継続性

学校から近接した工事箇所で行ったが、移動手段や内容の工夫等を検討し、本取組を継続して取り組むことで「持続ある水道の確保」を目指す。

継続は力なり!

